

法親寺新聞

2015年 秋彼岸号
手書き新聞 No.19

こんにちは。釋 紗音です。

秋のお彼岸がやってきましたね。

雨の日に飛行機に乗った時、空港は大雨で真っ暗なのに、離陸して雲より上に上がると、飛行機の窓からは、綺麗な青空が広がっているのを見えました。

分厚い雲の下にいる私たちは、青空を見ることはできませんが、見えない所でもいつも変わらずに青空はあるのだなぁと改めて感重くなりました。阿弥陀様のお慈悲は、太陽にも例えられます。

煩惱を持った私たちの心は、分厚い雲です。

雲があるうちは、いくら太陽が照らしてくれても、私たちにその光は届きません。心の雲を取り払い、仏法に耳を傾けてみると、阿弥陀様が太陽の光の様に、私たちを明るく照らしてくださっている事に気が付きます。

『彼岸』とは、小悟りの世界をさす言葉で、お浄土のことをいいます。お彼岸は、小さい小さいと、日頃なかなか仏法に触れることができない私たちが、いつかまた、亡き方と会えることを喜び、阿弥陀様のお徳を讃える期間でもあります。



余市のニッカウヰスキー
自然にあって良い香りでした。とても良い場所にあります。



本願寺 函館別院



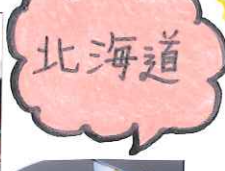
金森赤レンガ倉庫はすぐそばに港もあって、素敵な場所



登別温泉は、川や岩の間も、小樽には、美味しいもの湧いた源泉が流れています。モ眉山もありました。



GLAYが良く食べていたハセスト弁当、おいしいさくらんぼの南陽。



函館アリーナのこけら落とし!! GLAYのLiveに行きました。

住職の法話

3年ほど前になりますが、NHKのクローズアップ現代で臨終前に死んだ肉親などが会いにくる「お迎え」と看取りについての番組がありました。その番組では「亡くなった両親がやってくる」という死を間近に体験すると言われる現象について、自宅で看取られた人の4割が体験し、そのうち8割が死の恐れや不安から解放されたというこの現象について、学術調査も進められ、玄々覚だといわれてきた今までの状況とは違い、看取りの科学的調査が行われようとしているとのことでした。生を追究する過剰な延命治療の是非であるとか、患者が自らの死を受け止めることの必要性などを視点として取り上げている番組ではあったのですが、確かに霊的存在を肯定した上のものでした。「人間死んだらおしまい」なら、これらのことはすべて否定したものになりますから、宗教的視点とは別として、死後の存在はなくてはならないものなのでしょう。そして私たち念仏者には、死んだら行くべきところとして、浄土が用意されていますが、来迎をたのみとするのでしょうか。

親鸞聖人はその著書「教行信証」で、「真実信心の行人は摂取不捨のゆえに、正定聚のうちに住す。このゆえに臨終まづことなし来迎たのむことなし。信心のさだまるとき、往生またさだまなり。来迎の儀式をまたず」と述べられておられます。これは他力の信心を得た者は既に往生が決まっているのであるから、来迎のような奇蹟を期待するのは無意味であるということです。しかし、来迎の存在そのものを否定したものではありませんから、「亡くなった両親がやってくる」との言は真実なのかもしれません。



皆様からの
ご質問をドジッ
受け付けています!!
月参り、お彼岸、お盆、
法事の時やお電話
でも是非お願いし
ます♡

おしえて住職
Q&Aのコーナー

Q... お墓まいりは何のためにするのですか?

A... お墓は、自分自身を振り返る有難い場所であり、救済の場所です。お墓は、尊いお骨が納められています。亡き方は仏様となり、常に見守ってくださっているの、そこに眠ってはいません。亡き方がいつも見守ってくださっていることや、何代・何十代とご先祖様から私に命が受け継がれていること、私自身もいつかはお浄土へ参らせていただくことを考えると、感謝の気持ちでいっぱいになります。お供えは、お参りが終われば持ち帰り、食べ物への感謝の気持ちも忘れずに、美味しくいただきます。

お知らせ



秋季永代経法座

- 日時●平成27年10月7日(水) 午後1時～
- 場所●法親寺本堂
- 講師●住持 耳哉

※お車は、隣接駐車場及び臨時駐車場(ハローワーク北バス前)をご利用ください。